

令和 7 年度 総合型選抜入学試験問題
地域未来共創学環

グループワーク

【 問 題 】

我が国において農業は重要な地域産業とみなされています。しかし、農家の減少と高齢化に直面する今、農業の衰退を食い止め、持続可能なものへと転換していくことが重要な課題となっています。2020 年 3 月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」では、その方策の一つとしてロボット・AI・IoT などのデジタル技術を活用し、様々なデータを駆使した農業経営の推進が述べられています。例えば、農地や作物の生育状況に関するデータを、ドローンを用いて収集して農家はそのデータを利用することや、農産物直売所に販売する場合の適切な値段と出荷量を AI を用いて予測することなどの活用方法が考えられます。しかし、このようなデジタル技術やデータを活用する農家は多くはありません。

今みなさんは、デジタル技術やデータを活用できる農家を増やすことを目的にした地域イベントの企画者だとします。では、どのようなイベントを行えば良いでしょうか。グループで話し合ってください。その際、日本の農家がどの程度データを活用した農業経営を行っているかを示した別紙の図をよく参考にしてください。

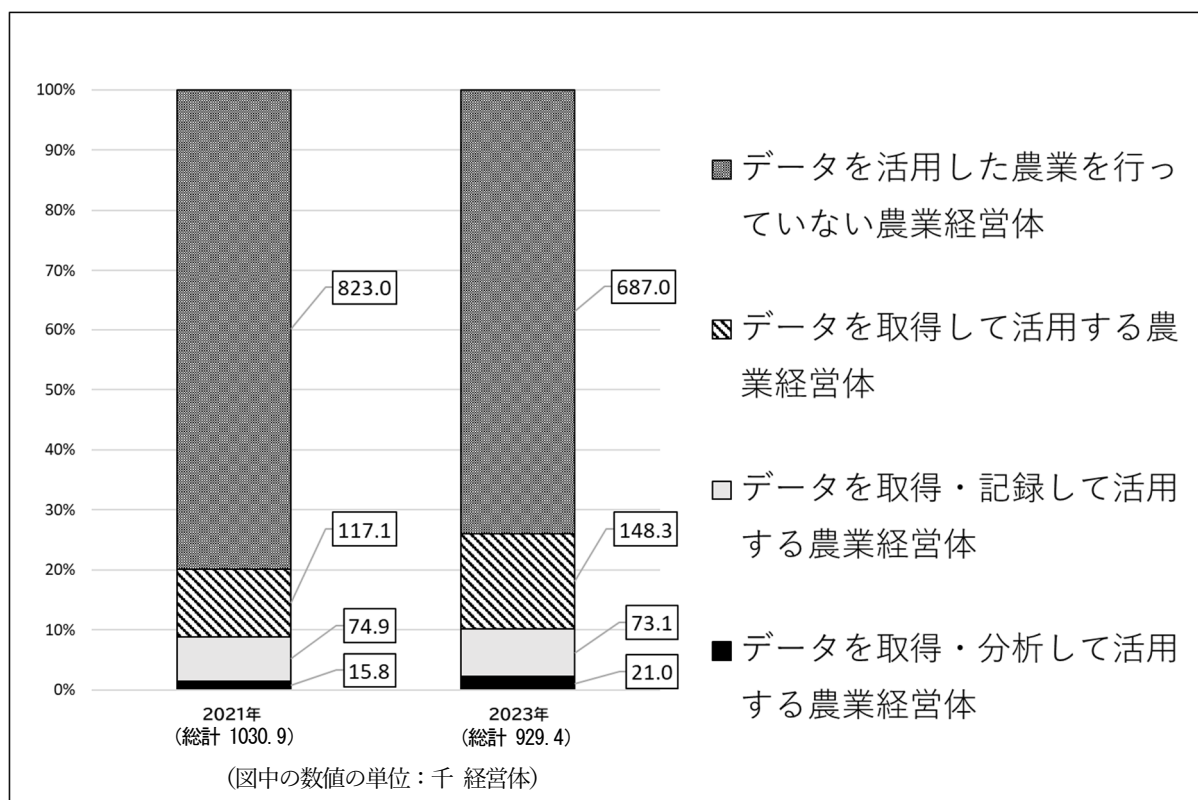


図 日本におけるデータを活用した農業を行っている農業経営体数

注記) 凡例の説明は以下のとおりです。

「**データを取得して活用**」とは、スマートフォン、パソコン、新聞などを通じて、天気の様子、市場の取引価格、栽培技術のノウハウ等の情報を取得し、農業経営に活用することをいいます。

「**データを取得・記録して活用**」とは、売上や費用などのデータ、いつどれだけ農産物を収穫して出荷したか等のデータを取得し、スマートフォンやパソコンにそれらを記録して農業経営に活用することをいいます。

「**データを取得・分析して活用**」とは、さらに高度なデータ（ドローンで得た農地や作物の生育状況のデータなど）を取得し、それらを専門のアプリやパソコンのソフトなどで分析して農業経営に活用することをいいます。

出典) 令和3年農業構造動態調査結果および令和5年農業構造動態調査結果より作成。